

「幼児教育の源流」について



莊 司 雅 子

幼児教育の父、幼稚園の創設者は、ドイツのフリードリヒ・フレーベルであります。幼児教育の重要性についてはフレーベルのほかに、多くの偉大な教育思想家が強調しています。これらの思想家の書き残したものを読むたびに、わたくしは今日において実践され、実現されていなければならないのに、いまだそのままになっている、幼児教育に関する多くの基本問題が既に示されているのを見いだすのであります。

わが国の幼児教育は近年とくに量的に発展してきました。特
に中教審の報告以来、人びとは幼児の能力開発に心を注ぎ、幼稚園や保育所において、早期教育といって、読み書き算数の詰め込みや、覚え込ませる教育を始めているところがふえているようであります。幼稚園とは今や小学校の縮図であり、小さい兵隊の養成所になりつつあるときいています。わが国の幼児教

育はまさに混迷状態におちいつております。これをみて心ある人びとは、「真の幼児教育とは何か」、「幼児教育の原点にかえれ」と叫んでいます。たしかに大人たちによって、今日の幼児はあつちに引っぱられ、こつちに引きまわされています。真の幼児の姿がだんだんみられなくなるのを憂う多くの識者をわたくしは知っています。

こうした幼児教育界をみて、わたくしは、大思想家の教えをさぐり、今日の問題を解決する糸口をもとめてはとと思い、若き有志の学徒と共に、ここに「幼児教育の源流」を連載してもらうことになりました。この試みが明日のわが国の幼児教育のために、いささかでも貢献できれば、執筆者の喜びはこれ以上ないと思います。

(広島大学教授)